

「入文の不動様」参道を整備

加藤建築 腕振るい 高齢者にも配慮の道づくり

豊橋の入文町内会

でなく、遠方から訪れる人もいる。

入文町内会の鈴木繁義前会長、岩瀬賢治会長、山本泰裕副会長と、ながら・加藤建築の加藤泰久棟梁がこのほど、現地を訪れ完成した階段を確認した。

鈴木前会長は「これでお年寄りでも安心してお参りができるようになった。難しい仕事を引き受けていただいた、加藤さんに感謝します」と話していた。(竹下貴信)

豊橋市石巻小野田町にある「入文(いぶみ)の滝」と、滝の近くにある不動明王の石像がまつられている「入文の不動様」と呼ばれる祠へと続く歩道が危険な状態だったことから、地域の入文町内会が整備を行い、新たに階段を設置した。

この不動様は毎年3月28日、祭りが開かれており、大勢の地域住民が参拝へ訪れる場所。農道か

ら祠や滝へと続く道が滑りやすく、危険な状況だったため、お年寄りでも安全に参拝してもらおうと階段を設置した。階段の全長は7段、高低差は2段ほどで、高齢者施設の基準で段差などを決め、手すりも付けた。

工事は、ながら・加藤建築(同市石巻本町)が担当。難工事だったとい、階段に使うコンクリートを運搬するため、深

さが5段ほどある谷に足場をかけた。

地域住民によると、江戸時代から不動様があったという言い伝えも残る。入文の滝は落差が10段ほどで、地域住民だけ



完成した階段で記念撮影する入文町内会の役員
の皆さんと加藤棟梁＝豊橋市石巻小野田町で



不動明王の石像をまつる祠と入文の滝＝同